

令和元年度入学試験

## 一 般 学 科 試 験

桐朋学園大学音楽学部

Ⅰ～Ⅱの各設問すべてに取り組み、それぞれの答えを解答用紙の所定の箇所に書きなさい。

### 注意事項

1. 問題用紙に落丁などある場合は、挙手をして申し出て下さい。
2. 終了時刻まで退出はできません。ただし、気分が悪くなったなどの場合は、挙手をして申し出て下さい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合で本文の段落に①～⑩の番号を付してある。

① わたしの大学での授業の目的は、いつも「情報生産者になる」ことでした。情報には、生産・流通（伝達）・消費の過程があります。メディアは情報伝達の①パイパイ、多くのひとたちはそこから得られた情報を消費します。もちろん学ぶことの基本は、「真似ぶ」ことですから他人の生産した情報を適切に消費することは、自らが情報生産者になるための②センチです。

② 世の中にはたくさん情報が流通しており、たくさん情報消費者がいます。新聞やTVなどのマスメディアの情報を、聞きつかじりで熟知り顔にくりかえすだけの人もいますし、人の知らない情報源にアクセスして、レアな情報をゲットする情報オタクもいます。そのうえ情報グルメ（美食家）や情報グルマン（大食漢）、情報コノスウア（食通）までいます。情報の消費者には「通」から「③野暮」までの幅があつて、情報通で情報のクオリティにうるさい人を、情報ディレッタントと呼びます。もちろん質の高い消費者がいるからこそ、情報のクオリティも上がるのですが、④情報も料理も、消費者より生産者のほうがえらい！とわたしは断言します。料理だって、グルメの消費者より、料理をつくるひとのほうが、何倍もえらいんです。なぜかって、生産者はいつでも消費者にまわることができますが、消費者はどれだけ「通」でも生産者にまわることができないからです。

③ わたしは学生にはつねに、情報の消費者になるより、生産者になることを④ヨウキユウしてきました。とりわけ、情報ディレッタントになるより、どんなつたないものでもよい、他の誰のものでもないオリジナルな情報生産者になることを求めました。

④ 偏差値の高い学生たちは好みのうるさい情報ディレッタントになりがちです。そしてそれはしばしばないものねだりや、揚げ足取りになる傾向があります。他人の生産物のしんならつな批評家になることは誰にでもできますし、ときにはそれは快感でもあります。ならオマエがやってみろ、と言われて⑤代替物を提示するのは容易ではありません。学部生までならそれでも許されるでしょう。ですが、大学院生のように、学知の再生産制度のなかに入った者は、文句があつたらオマエがやってみろ、という批判から逃れることはできません。だから、情報生産者の立場にたつことを⑥カクゴして消費者になると、情報の消費のしかたも変わってきます。この情報はどうやって生産されたのか？……⑦その楽屋裏を考えるとどうなるからです。

⑤ 何よりも情報生産者になることは、情報消費者になることよりも、何倍も楽しいし、やりがいも手応えもあります。いちど味わつたらやみつきになる……それが研究という極

道です。

6 情報はノイズから生まれます。これが情報工学の基本です。ノイズのないところに情報は生まれません。

7 ノイズとは何か？ ノイズとは<sup>⑦</sup>違和感、こだわり、疑問、ひっかかり……のことで。ですからあたりまえだと思つて何も疑問も感じない環境のもとでは、ノイズは生まれません。

8 ノイズのなかから意味のある情報が生まれることがあります。情報にならずにノイズのまま終わってしまうノイズもあります。ですからできるだけたくさんノイズが発生するような環境をつくつておくと、それだけ情報生産性が高くなるともいえます。

9 自分があたりまえだと思つて何も疑問も抱かない環境では、ノイズは発生しません。これを社会学の用語では「自明性」と言います。反対に、自分から距離が遠すぎて受信の網にひっかからない場合も、ノイズは発生しません。これを社会心理学の用語で「認知的不協和」といいます。聞こえているけれど聴かれていない、「選択性難聴」のような経験を、多くのひとはあじわつたことがあるでしょう。

10 ですから、ノイズは自明性と疎遠な外部とのあいだ、自分の経験の周辺部分のグレイゾーンで発生します。情報の生産性を高めるには、<sup>③</sup>ノイズの発生装置をまずつくらなければなりません。そのノイズのなから、意味のある情報もまた生まれるからです。

11 ノイズの発生装置を活性化するのはかんたんです。

12 第一は自明性の領域を縮小すること。第二は疎遠な領域を縮小すること、それを通じて情報の発生する境界領域、グレイゾーンを拡大することです。どちらも自分にとつてあたりまえのことがあたりまえにならないような環境に身を置くことによつて得られます。そんなにむずかしいことはありません。ことばも習慣もちがう異文化に身を置くことや、それではコストが高つくようななら、生い立ちや環境のちがう人や障害を持った人と身近に接すればいいのです。

13 情報を生産するには問いを立てることが、いちばん<sup>⑧</sup>肝心です。それも、誰も立てたことのない問いを立てることです。適切な問いが立ったとき、研究の成功は半ばまで約束されているといつても<sup>⑨</sup>過言ではありません。問いを立てるとは、現実をどんなふうに切り取つて見せるかという、切り込みの鋭さと切り口の鮮やかさを言います。

14 問いを立てるには、センスとスキルが要ります。スキルは磨いて伸ばすことができますが、センスはそういうわけにいきません。センスには、現実に対してどういう距離や態度を持っているかという生き方があらわれます。

15 大学に入って「さあ、問いを立ててごらん」と言われても、どうしたらよいかかわからな

い学生に、たくさん出会ってきました。大学生になるまでのあいだに、そう言われてきたことがないからです。文献を批判的に読みなさい、と言つても、説得されて批判が思い浮かばない、と<sup>⑩</sup>コンワークして答える学生もいました。しかし、何事も訓練と学習です。まなびならう、そしてならうよりなれる。問いを立てることも、センスのよい問いを立てることも、場数を踏めば学ぶことができます。

**16** 問いを立てる際、条件がふたつあります。第一に、答えの出る問いを立てること。第二に手に負える問いを立てることです。社会学科は形而上学ではなく形而下の現象を扱う経験科学ですから、「神が存在するか」とか「殺人は許されるか」といった、証明も反証もできない公準命題のような問いは立てません。たとえば上記の問いを、「神は存在すると考える人々はいかなる人々か」「いかなる条件のもとで殺人は許され、いかなる条件のもとでは許されないか」と文脈化すれば、これらの問いに答えることができます。第二に、人間には時間も資源も限られていますから、一日で解ける問い、一カ月で解ける問い、一年で解ける問い、あるいは一生かけても解けない問い……があります。問いのスケール感をまぢがえず、限られた時間のなかで答えが出る問いを立てることで、問いから答えまでのプロセスを経験して、「問いを解く」とはどういうことを体感する必要があるようです。いったん<sup>(4)</sup>そのプロセスを経験すれば、あとは問いのスケールを拡大したり、問いの対象を変えたりしても、応用が可能になります。

**17** 誰も立てたことのない問いを立てる……ことを、<sup>(5)</sup>オリジナルな問いと言います。オリジナルな問いには、オリジナルな答えが生まれます。それがオリジナルな研究になります。

**18** ところでオリジナルティとは何でしょうか？

**19** オリジナリティとはすでにある情報の集合に対する距離のことを言います。距離は英語では distance ですが、つまりすでにある知の集合からの遠さ distance を自分の立ち位置 stance というのです。

**20** 誰も立てたことのない問いを立てるには、すでに誰がどんな問いを立て、どんな答えを出したかを知らなければなりません。すでにある情報の集合を知識として知っていることを、「教養」とも呼びます。教養がなければ、自分の問いがオリジナルかどうかさえわかりません。

(上野千鶴子『情報生産者になる』(ちくま新書、2018年)により、問題に合わせて一部変更を加えた)

問一 波線部①～⑩のカタカナは漢字に、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

問二 傍線部(1)「情報も料理も、消費者より生産者のほうがえらい! とわたしは断言します」とありますが、その理由を筆者はどのように述べていますか。

問三 傍線部(2)「その楽屋裏を考えるようになる」とありますが、それはどのようなことと考えられますか。40〜60字で説明しなさい。

問四 傍線部(3)「ノイズの発生装置をまずつくらなければなりません」とあるが、そのために必要な条件を本文より二つ抜き出しなさい。

問五 傍線部(4)「そのプロセス」とは、どのような過程か。本文より十三字で抜き出しなさい。

問六 傍線部(5)「オリジナルな問い」とあるが、そのような問いを立てるために必要な事柄を本文ではどのように考えていますか。60字程度で説明しなさい。

問七 二重傍線部「できるだけたくさんノイズが発生するような環境」とありますが、あなたの大学生活における音楽活動の中で、そうした環境を作るために実践できると思うことを二つ考え、それぞれ20字程度で説明しなさい。

問八 この文章の構成・内容に関する説明として適当でないものを、次のア〜エのうちから一つ選びなさい。

ア 第1段落〜第2段落では、「情報生産者になる」という本論のテーマを示した上で、種々の情報消費のあり方を著者独自の言い回しで列挙しながら、情報の消費者側ではなく生産者の側に積極的な評価を与えている。

イ 第3段落〜第5段落では、情報ディレタントではなくオリジナルな情報の生産者になることを推奨し、情報生産者の立場に立つことで「情報の消費のしかた」にも変化が現われることを指摘している。

ウ 第13段落〜第15段落では、情報を生産するためには「問いを立てること」が重要であることを説き、その際に必要なセンスとスキルを向上させるための方法を、個別具体的に解説している。

エ 第18段落から第20段落では、「オリジナルテイ」という言葉を明確に定義し、オリジナリティのある問いを立てるためには、既存の情報の集合である「教養」を習得す

る必要があることを指摘している。

〔解答〕

問一 ①媒体 ②前提 ③やぼ ④要求 ⑤だいたい

⑥覚悟 ⑦いわ ⑧かんじん ⑨かごん ⑩困惑

問二 生産者はいつでも消費者にまわることができますが、消費者はどれだけ「通」でも生産者にまわることができないから。(5)

問三 提示されている情報が、誰に向けて、どのような意図をもって書かれているか、情報の根拠が妥当であり、適切な道筋で結論に至っているかなどを考えること。

問四 「i」自明性の領域を縮小すること(5)

「ii」疎遠な領域を縮小すること、それを通じて情報の発生する境界領域、グレーゾーンを拡大すること(5)

問五 問いから答えまでのプロセス

問六

問七

問八  
ウ

問6・問7は非公表とさせていただきます





## 課題文Ⅱ

次の各問に答えなさい。(解答は、解答用紙の所定の箇所に記すこと。)

問1. 次の各文を日本語にきなさい。

1. I found it difficult to be liked by everybody.
2. In spoken English, you should not use these words.
3. What a good thing it is to have many choices!
4. We must try to do what we think we can't do.
5. It is important to be busy at something. A busy person never has time to be unhappy.

問2. 次のサミュエル・ジョンソンの言葉の、英語の部分は日本語に、日本語の部分は英語にきなさい。

There are two types of knowledge. ひとつは物事を知っていること。もう一つはそれをどこで見つけるかを知っていること。

問3. 次の各文を英語にきなさい。

1. 彼がどこでその靴を買ったか知ってますか？
2. 私は朝食後、1時間の散歩に出かけることにしています。
3. あなたは他の人と一緒に何かをするのが得意ですか？
4. その先生が書いた詩を読んだことがありますか？

問4. 英語で書かれた次の言葉を日本語にきなさい。

Shared joy is a double joy; shared sorrow is half a sorrow.

また、それについてあなた自身の意見を50語程度の英語で書きなさい。(句読点を数えずに40～60語で)

課題文Ⅱ 解答用紙レイアウト

問 1.

- 1. ....
- 2. ....
- 3. ....
- 4. ....
- 5. ....

問 2.

和) .....

英) .....

問 3.

- 1. ....
- 2. ....
- 3. ....
- 4. ....

問 4.

和訳) .....

あなたの意見 :

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

## 課題文Ⅱ 解答例

問1. 次の各文を日本語にきなさい。

1. I found it difficult to be liked by everybody.

**誰からも好かれる、というのは難しいと分かった。**

2. In spoken English, you should not use these words.

**話し言葉では、これらの単語は使わないこと。**

3. What a good thing it is to have many choices!

**たくさんの選択肢があるのは、何と良いことか！**

4. We must try to do what we think we can't do.

**私たちは自分にはできないと思うことをしようと努めるべきだ。**

5. It is important to be busy at something. A busy person never has time to be unhappy.

**何かに忙しいことは大事だ。忙しい人は、不幸になる暇がない。**

問2. 次のサミュエル・ジョンソンの言葉の、英語の部分は日本語に、日本語の部分は英語にきなさい。

There are two types of knowledge. ひとつは物事を知っていること。もう一つはそれをどこで見つけるかを知っていること。

解答例) 2つの型の知識がある。One is knowing a thing. The other is knowing where to find it.

問3. 次の各文を英語にきなさい。

1. 彼がどこでその靴を買った知ってますか？

**Do you know where he bought the shoes?**

2. 私は朝食後、1時間の散歩に出かけることにしています。

**I usually take an hour-long walk after breakfast.**

**I usually walk for an hour after breakfast.など**

3. あなたは他の人と一緒に何かをするのが得意ですか？

**Are you good at doing something with others?**

4. その先生が書いた詩を読んだことがありますか？

**Have you ever read the poems written by the teacher?**

**Have you ever read the poems which the teacher wrote?など**

問4. 英語で書かれた次の言葉を日本語にきなさい。

Shared joy is a double joy; shared sorrow is half a sorrow.

また、それについてあなた自身の意見を50語程度の英語で書きなさい。(句読点を数えずに40～60語で)

直訳) 分かち合った喜びは2倍の喜びで、分かち合った悲しみは半分の悲しみ。

意識) 人と喜びを分かち合えば、それは2倍になり、人と悲しみを分かち合えば、それは半分になる。

*It is good to have friends whom we can share our feelings with. When I am sad, I do need a friend I can talk with. After talking, I always find my sadness becomes smaller. When I am happy, I tell my happiness to my friends, and what I tell them can make them happy, too. (56語)*